

日本産業衛生学会

産業医部会会報

第1号 平成6年3月10日

日本産業衛生学会産業医部会事務局
〒807 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学産業医実務研修センター
TEL 093(691)7462 FAX 093(692)4590

会報発刊に寄せて



近藤 東郎

日本産業衛生学会は、青春から老年に至るまで私にとって最も身近な学会であった。正会員であった若い頃、まさかこの学会の理事長になるとは夢にも思っていなかった。同じく、大学の教室員であった時にまさか産業医になろうとは考えてもいなかった。ただ1回、川崎製鉄のユニークな産業医であった金谷博士にお会いした折、これは結構面白そうな仕事かも知れないなと感じたことがある。丁度、30代半ばのことであった。その印象は、多分私の中に居続けていたのであろう。だから、大学助教授から三井銀行の健康管理をマジで引き受ける気になったのだろう。私が、44歳の時である。

日本産業衛生学会は、昭和4年に内務省関係の医師と産業医が集まって作った会である。ところが戦後になって多数の大学の医学研究者が入会し、学会活動が学問第一主義に変化した。これに反発した有志の産業医が現場第一主義を唱えて作ったのが、産業医協議会である。この協議会は毎年秋に開かれてきたが、どうもいま一つパンチが効かずボヤキ万才という有難くない評判をとってしまった。私は産業医の経験もっている理事長として、任期中になんとか産業医協議会のリストラをしたいと公約した。理事諸君の協力もあって、2期目も終わりに近く産業医部会への発展的再編成が総会で承認されたのである。

今回、産業医部会会報が新たに発刊される運びとなったことは、私にとっても大変嬉しいニュースである。願わくば、この会報が今後の産業医活動の自立に大いに役立つような内容を満載した形で継続して行くことを心から期待するものである。

(前 理事長)

産業医部会活動に期待する



島 正吾

このたび産業医部会会報の発刊をお祝いし、併せて部会活動の本格的展開と、一段の活性化を心から期待するものであります。

ご承知の通り、日本産業衛生学会は、学会員数6,000余名を擁し、名実ともに斯学の進歩発展のために日夜研鑽を重ねております。

今日こうした状況下で、産業医部会と産業看護部会は日常的な部会活動を通して、産業医学、産業保健学を中心に、広く学際領域にまたがる産業衛生活動を行っていることは、誠に大きな慶びであります。

しかしながら、これらの部会は誕生して未だ日も浅く、学会員の多くがより効果的な部会の組織運営のあり方を求めて、ひたすら努力されております。

産業医部会規程にある事業活動としては、1) 産業医全国集会の開催、2) 産業医制度に関する調査、情報の収集および協議、3) 産業医活動に関する研究、教育、4) 日本産業衛生学会専門医制度に係わる業務、ならびに5) その他の必要な事業が明記され

ております。このことはまた、産業看護部会にも共通したことであり、今後2つの部会が互いに専門職としての立場を尊重し合いながら、部会活動の妙を発揮されることが望まれます。

なお本年10月には、第4回産業医・産業看護全国協議会が名古屋で開催される予定であり、この際あらためて本学会における部会活動の位置づけと、全国協議会のもつ意義を問い直してみたいと思います。一方、その他の事業活動については、両部会の緊密な連携と協力体制を基盤にして、より清新で活力に溢れた展開が求められています。産業医部会会報の発刊を機会に、21世紀を指向する部会活動のさらなる活性化と発展をめざして、学会員が一丸となって完全燃焼されんことを願ってやみません。

(理事長)